



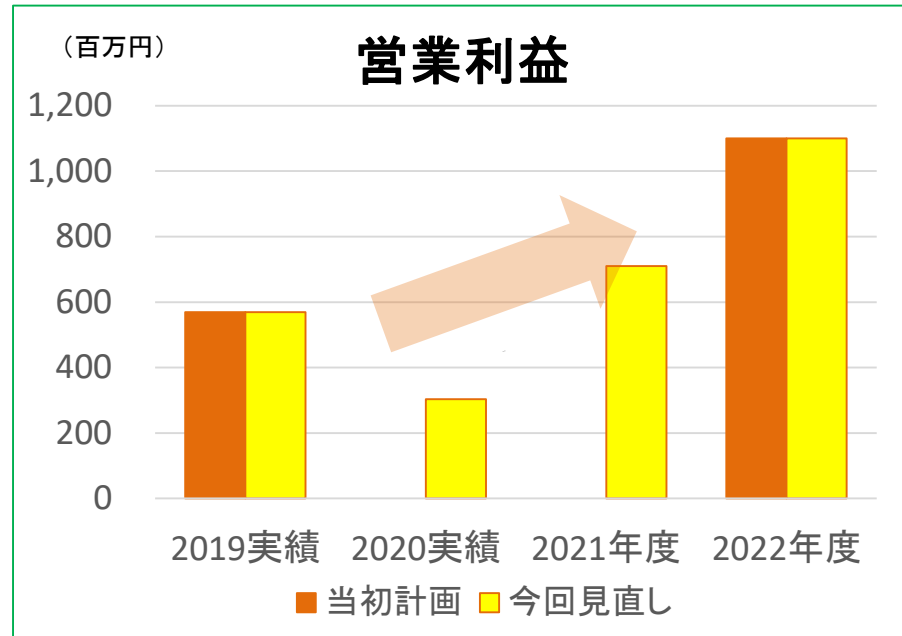
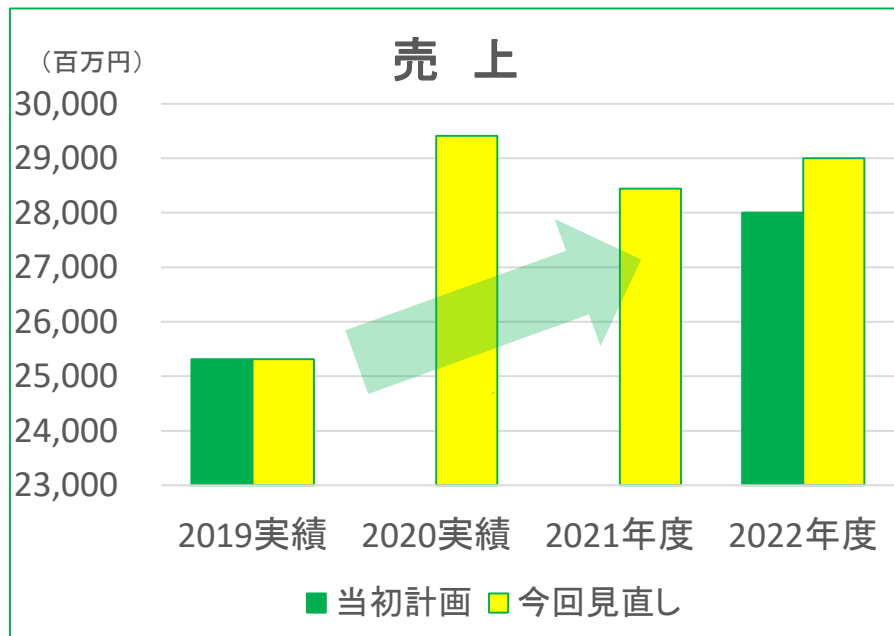
2020-2022年度 大井電気グループ中期計画  
＜初年度実績と今後の見通し＞  
2021年6月24日



**大井電気株式会社** Oi Electric Co.,Ltd.

# 中期計画について

大井電気グループは、より一層のお客様への貢献を通じて中長期的な成長を目指し、2022年度を最終年度とする3年間の中期計画を策定しています。



- 初年度となる2020年度は、売上は目標値を前倒し達成したものの、営業利益は減益となりました。2021年度は前倒し需要の反動減もあり、減収増益を見込んでいます。
- 最終年度の目標値については、  
連結売上：290億円(当初計画から10億円増)、連結営業利益：11億円(当初計画と変わらず)  
の達成を目指します。



# 大井電気グループの2つの事業

## 【情報通信機器製造販売事業】

3つの成長ドライバーを軸に売上・利益の拡大を図るとともに、次の成長事業基盤の発掘・開発・製品化に向けて取り組みます。

- 光伝送システム、無線応用システム、セキュリティ・監視システム、リモート計測・センシングシステムの製造販売
- 関連機器のソフトウェアの製造販売

大井電気(株)  
オオイテクノ(株)

## 【ネットワーク工事保守事業】

情報通信インフラの構築や運用を行う専門技術者集団として、安全確保を前提に、携帯基地局工事の受注を始め、事業領域の拡大を図ります。

- 通信設備、光ネットワーク、CATV等の工事及び保守

日本フィールド・エンジニアリング(株)  
日本テクニカル・サービス(株)  
(株)エヌ・エフ・サービス



# 3つの成長ドライバー

## ① 光波長多重伝送システム事業



光波長多重伝送機器

## ② IoTシステム事業



LPWA関連機器

## ③ 防災・減災ソリューション事業



280MHz防災システム関連機器

3つの成長ドライバー事業のさらなる高度化に加え、次の事業成長基盤の開拓に取り組めます。

# ①光波長多重伝送システム事業

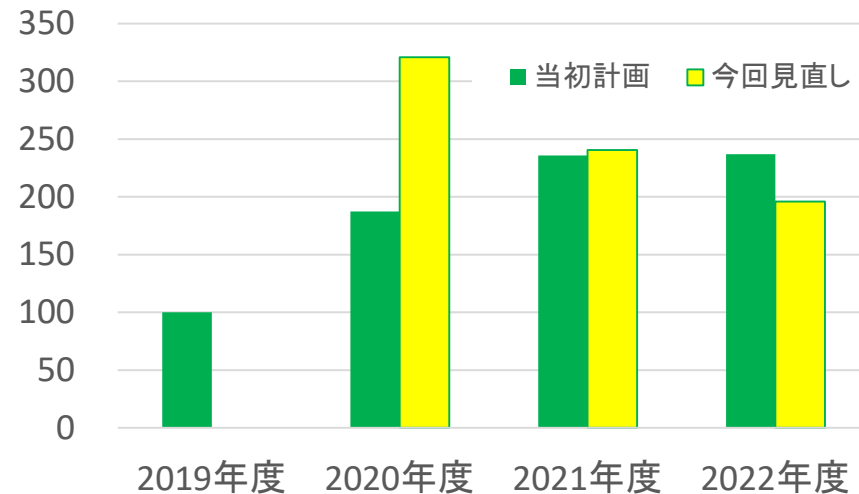
## ＜市場動向＞

第5世代移动通信システム(5G)の普及やインターネット利用拡大等によるデータトラフィックの増大に伴い、光伝送機器への設備投資の増加が見込まれています。

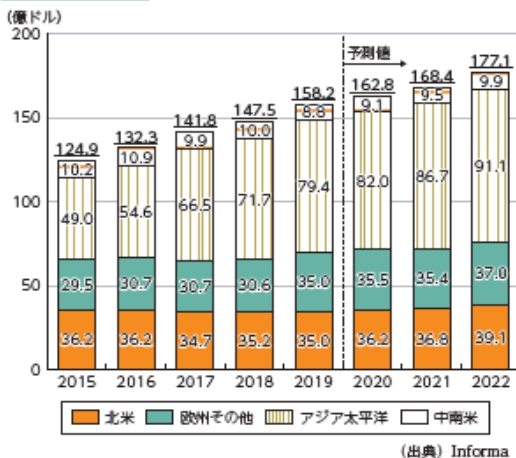
今後、さらなる高速化・高性能化を実現する製品の投入により、高度化するお客様ニーズに対応してまいります。

## ＜売上計画＞

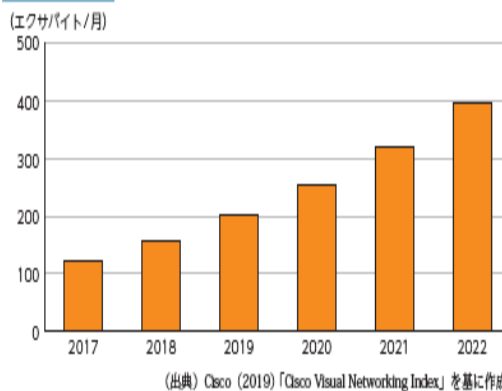
2019年度を100とした指数



図表 1-4-1-13 世界の光伝送機器市場規模の推移と予測

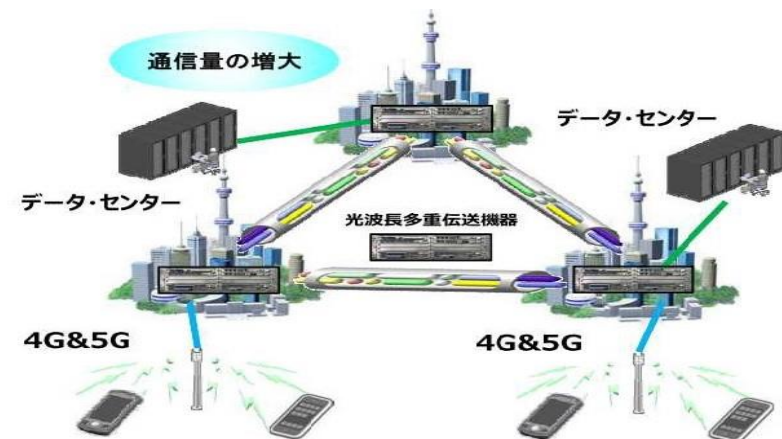


図表 3-1-1-2 IPトラフィックの推移



出典：「令和2年版情報通信白書」（総務省）

## ＜製品適用例＞



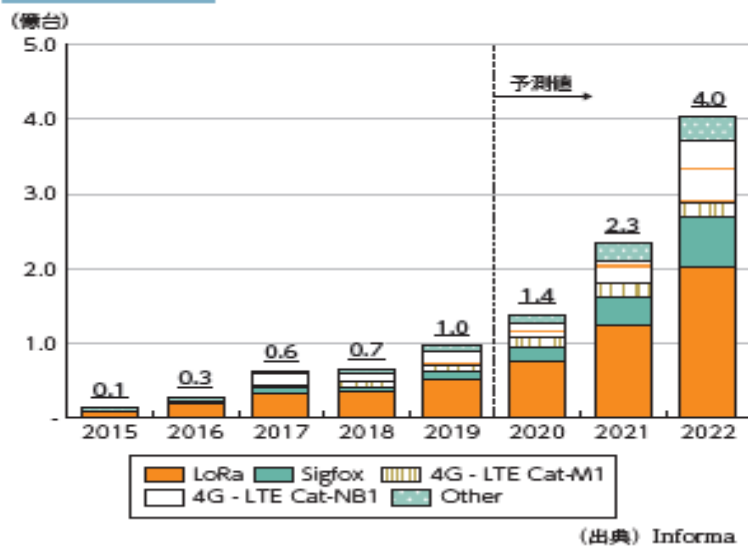
## ② IoTシステム事業

### ＜市場動向＞

様々な「モノ」がインターネットに接続されるIoT。需要の立ち上がりは若干遅れていますが、LPWAは低消費電力かつ長距離通信が可能な無線通信方式として、IoT社会を実現する通信インフラとして急速な普及が見込まれています。

IoT: Internet of Things    LPWA: Low Power Wide Area

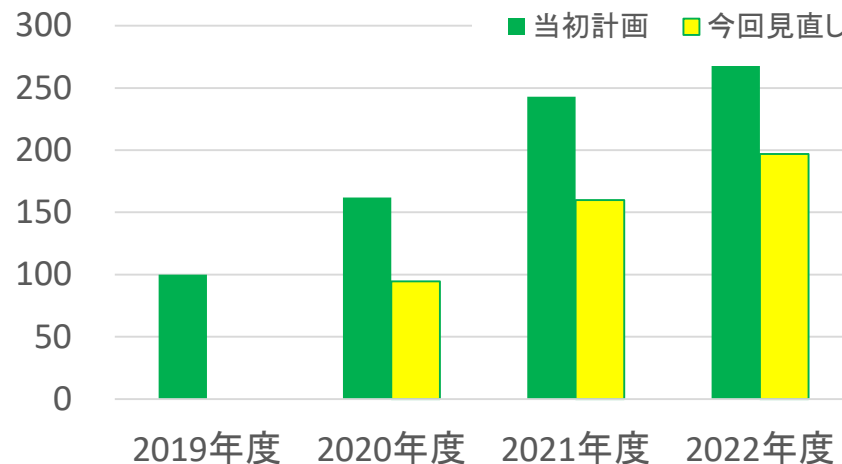
図表 1-4-1-19 世界のLPWA モジュール出荷台数推移及び予測<sup>\*11</sup>



出典: 「令和2年版情報通信白書」(総務省)

### ＜売上計画(LPWA)＞

2019年度を100とした指数



### ＜主力製品＞



中継用LoRaSPN  
ゲートウェイ



LoRaSPNエンドデバイス

### 製品特性

- ◆ 長距離通信
- ◆ 低電力
- ◆ 耐ノイズ



# ③防災・減災ソリューション事業

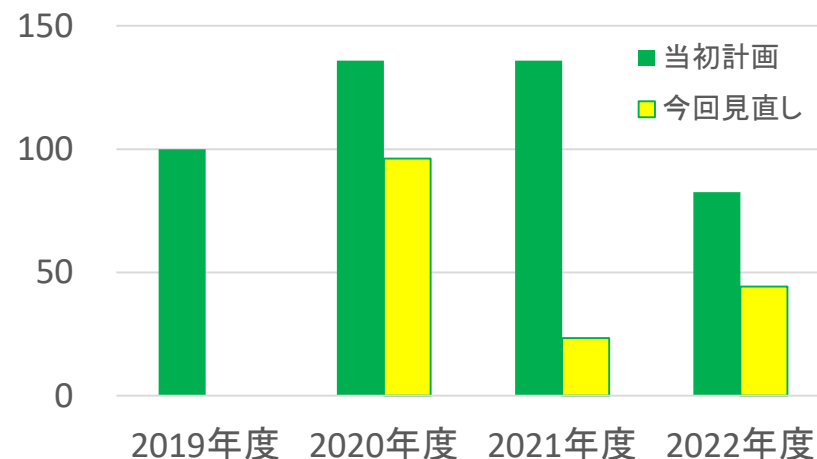
## ＜市場動向＞

東日本大震災や激甚化する自然災害の発生を踏まえ、各自治体様では、災害による被害状況の把握、救急・救命活動に重要な役割を担う 消防・救急無線及び防災行政無線デジタル化が国主導のもと進められています。

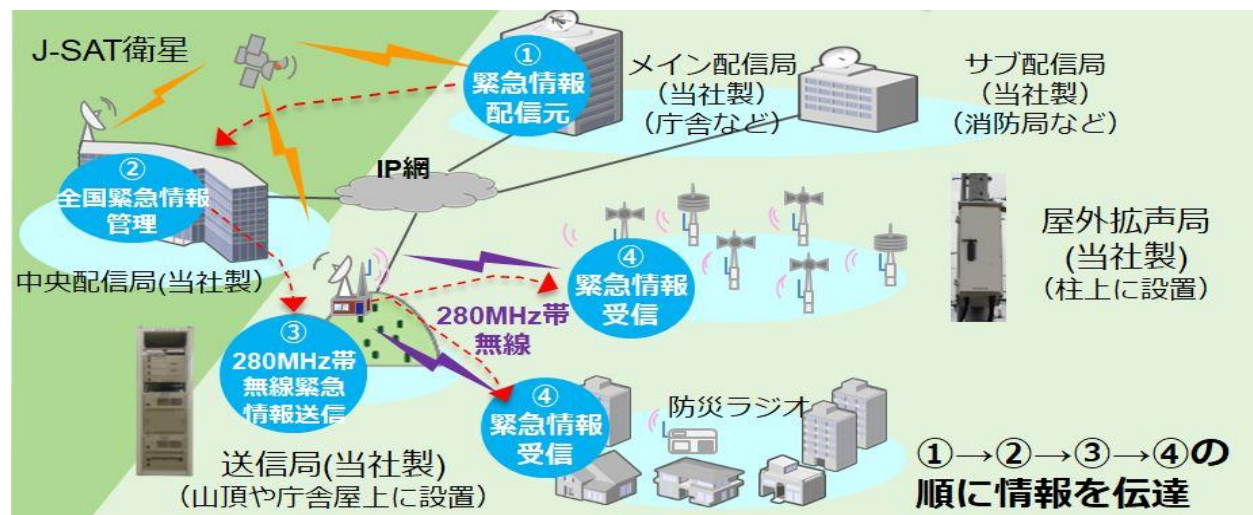
新型コロナの影響もあって計画を下方修正していますが、着実に導入されるものと予想しています。

## ＜売上計画＞

2019年度を100とした指数

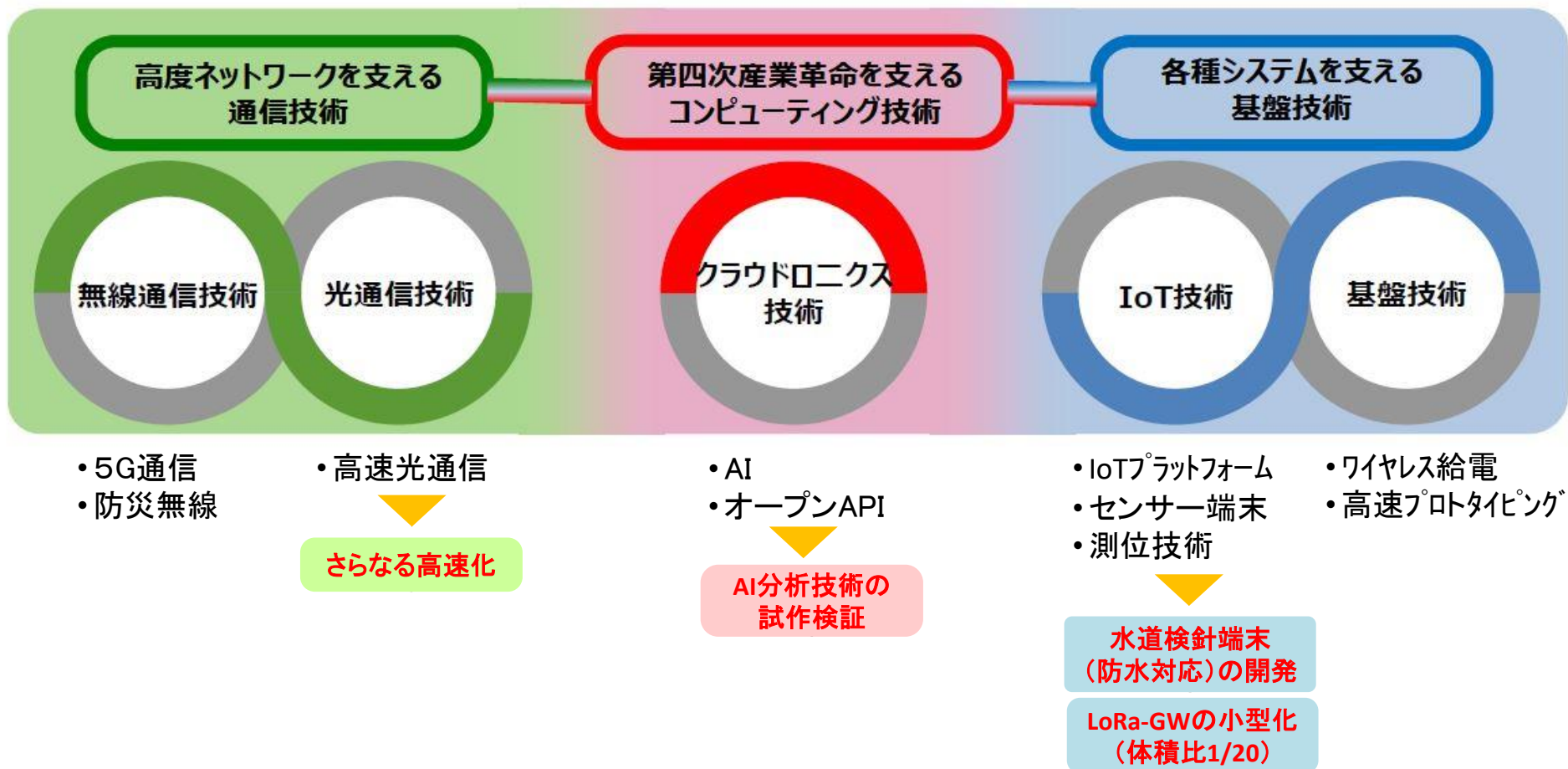


## ＜システム構成例＞

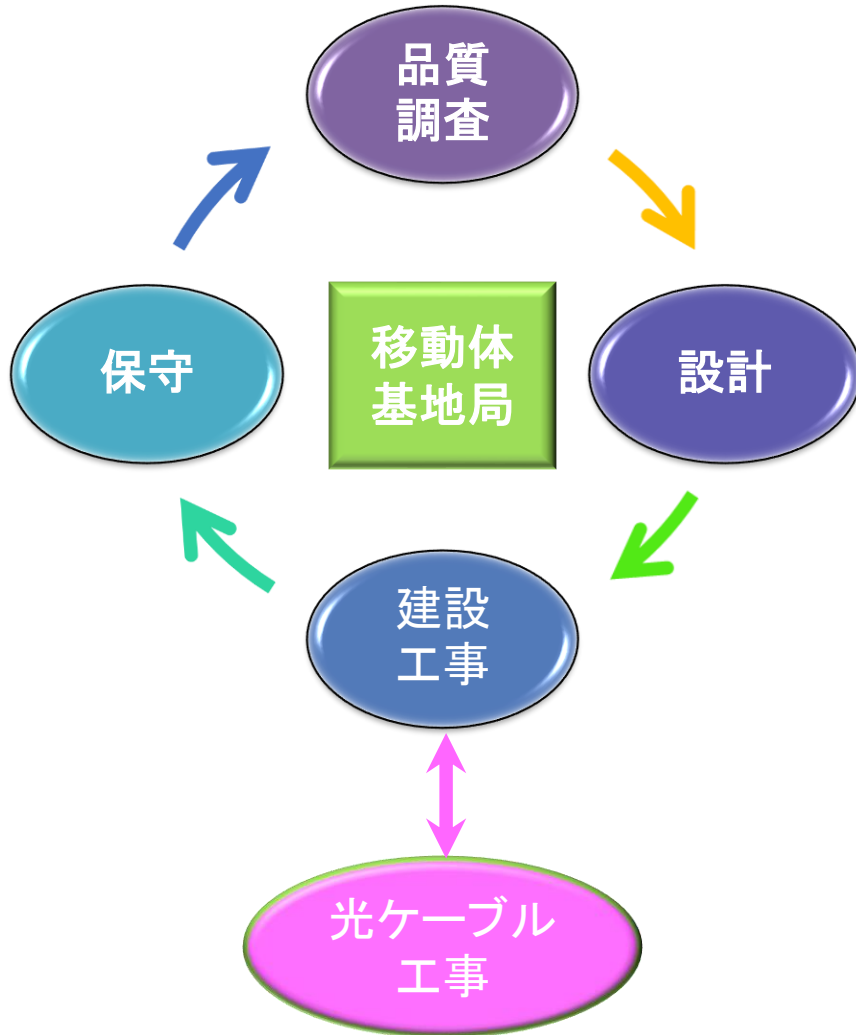


# 研究開発

特長ある製品、競争力のある製品を生む出すため、5つのコア技術を中心に研究開発を推進します。



# 基地局建設工事への取り組み



| 関連業務         | 一気通貫体制による強み                                                                                              |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保守と品質調査      | <ul style="list-style-type: none"> <li>保守作業時に基地局の周辺状況の変化を把握。品質改善の提案が可能。</li> </ul>                       |
| 建設工事と光ケーブル工事 | <ul style="list-style-type: none"> <li>基地局建設とアプローチ回線構築の一気通貫実施により工期短縮・コストダウンを実現。</li> </ul>               |
| 保守と設計        | <ul style="list-style-type: none"> <li>既存局への増設工事では保守作業で蓄積した情報を有効活用</li> <li>オーナー様とのスムーズな交渉</li> </ul>    |
| 保守と建設工事      | <ul style="list-style-type: none"> <li>新設局情報の速やかな保守へのフィードバック</li> <li>保守・建設の同時実施によるオーナー様の負担軽減</li> </ul> |



# 基地局建設工事計画数



<5Gサービス本格化>

2019年度  
実績100

2020年度  
実績130

※新型コロナの影響により目標未達

2021年度  
目標350

2022年度  
目標360

2023年度  
目標480

※2019年度を100とした指数



# 教育・研修体制

ネットワーク工事保守事業の主力会社である日本フィールド・エンジニアリング(株)では、安全動作の確実な習得、技術・技能向上のため、自社内に「技術研修センター」を設置し、最新の技術・知識を継続的に習得する環境を整えています。



## 専門技術力を活かした取り組み事例

### ＜通信インフラの構築＞



### ＜災害復旧＞



# 将来予測に関する記述

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险および不確実性が含まれます。
- このため、今後様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください。

